

# 原ノ畑遺跡Ⅰ

大野城市教育委員会



原ノ畑遺跡は白木原5丁目にある遺跡で、昭和63年（1988年）から4回の発掘調査を行っています。主に古墳時代前期（今から約1700年前頃）と奈良時代（今から約1250年前頃）の遺構（人の住んだ跡など）が見つかっています。

左の写真は古墳時代の土器が土坑（穴）から見つかったところです。上の写真はそれらの土器を洗って元の形につなぎ合わせたところです。

表の写真もこの写真も平成2年(1990年)に行った第2次調査の時のものです。この時は<sup>たてあなじゆうきよあと</sup>堅穴住居跡と土坑が見つかりました。中央の写真は土坑5と土坑6です。そして上の写真が土坑5で見つかった土器、下の写真が土坑6で見つかった土器です。これらも古墳時代前期の土師器です。

土師器<sup>はじ</sup>と言っておよそ800度ぐらいで焼かれたもので、赤っぽい色をしています。



上の写真に写っている土器のうち、大きくて丸い土器は甕<sup>かめ</sup>と言って、貯蔵用などに使いました。大きく開いた皿のようなものに脚が付いたものは高杯<sup>たかづき</sup>と言って、おそなえの時などに使いました。小さい壺は小型丸底壺<sup>こがたまるぞこつぼ</sup>と言い、茶わんのようなものは鉢<sup>はち</sup>とか碗<sup>わん</sup>と言います。高杯は珍しい形をしていて、近畿地方の高杯の形をまねたものです。

右の写真にも似た形の土師器がたくさん写っています。でも、高杯や小型丸底壺には上の写真と違う形のものもあります。また、小型の壺をのせる器台<sup>きだい</sup>もあります。

このように原ノ畑遺跡からは古墳時代前期の土師器がたくさん見つかりました。住居跡も見つかっていますので、当時の村があったことがわかります。市内でもこの時代の集落が見つかるのは珍しいことです。

